

糖質科学で未来を創る

Exploring the Innovative Promise of Glycoscience



第72期
中間報告書

2017年4月1日～2017年9月30日

『グローバル・カテゴリー・ファーマ』としての発展を目指し、 中期経営計画における重点戦略を着実に進めてまいります

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、「生化学工業10年ビジョン」のもと、糖質科学に研究開発の焦点を絞り、国際競争力を確立する『グローバル・カテゴリー・ファーマ』としての発展を目指しています。この一環として、現在、「ACT for the Vision ~10年ビジョンの達成と更なる飛躍~」をキーコンセプトとする中期経営計画(2016年度~2018年度)のもと、各重点戦略に取り組んでいます。

成長戦略の鍵となる開発テーマのSI-6603^{(*)1}につきましては、申請中である

日本において承認を得られるよう引き続き努力を尽くすとともに、米国における第III相臨床試験で主要評価項目を達成できなかったことに対応し、最速で再試験を開始すべく準備を進めております。また、小野薬品工業株式会社と日本における共同開発及び販売提携契約を締結したSI-613^{(*)2}につきましては、各適応症の臨床試験が進捗しており、早期に患者の方々にご使用いただけるよう注力してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

*1 SI-6603: 腰椎椎間板ヘルニア治療剤

*2 SI-613: 変形性関節症及び腱・靭帯付着部症治療剤



代表取締役社長

水谷 建

糖質科学を専門分野とする
研究開発型製薬企業

研究開発・製造に特化した
ビジネスモデルを展開

グリコサミノグリカン
(GAG)に関する
最先端の技術力

糖質科学で未来を創る

生化学工業は、糖質科学に研究開発の焦点を合わせ、独創的な医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康で心豊かな生活に貢献しています。

糖質科学とは

糖鎖や複合糖質を研究する科学分野です。近年、多くの病気と糖鎖との関係について解明が進展しています。糖質科学の研究が進むことで、新しい治療法や診断法の開発につながる事が期待されています。

連結業績概況

ハイライト

当中間期：2017年4月1日～2017年9月30日
前年同期：2016年4月1日～2016年9月30日

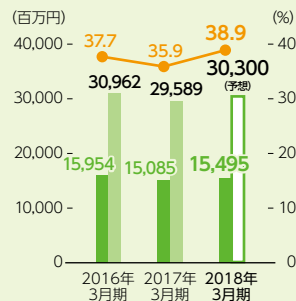
(百万円)

科目	当中間期	前年同期	増減率
売上高	15,495	15,085	+2.7%
営業利益	2,218	783	+183.4%
経常利益	4,794	1,376	+248.3%
四半期純利益	3,550	1,013	+250.4%
研究開発費	3,205	4,109	-22.0%

売上高は、国内アルツの前年同期における出荷集中の反動や中国アルツの現地在庫調整があった一方で、米国スパルツFXの現地在庫積み増しによる出荷増や円安効果などがあり、増収となりました。

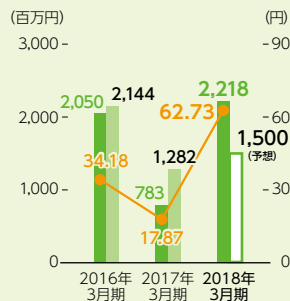
営業利益は、研究開発費の一部が第3四半期以降にずれ込むなど販売費及び一般管理費が減少したことにより、増益となりました。経常利益及び四半期純利益は、受取ロイヤリティーの大幅な増加や保有外貨建資産の為替評価が差益に転じたことなどにより、増益となりました。

売上高/海外売上高比率



売上高：■ 中間期 □ 通期
海外売上高比率：● 中間期

営業利益/1株当たり純利益



営業利益：■ 中間期 □ 通期
1株当たり純利益：● 中間期

事業部門別概況

医薬品事業

ヒアルロン酸を主成分とした医療用医薬品・医療機器の製造・販売を展開する、当社のコア事業です。

売上高構成比

81.0%



■ 当中間期の業績

国内医薬品 売上高84億5千3百万円(前年同期比0.8%減)

関節機能改善剤アルツは、市場全体がほぼ横ばいで推移するなか、前年同期に新容器投入に伴う販売増があった反動を受け、医療機関納入本数及び当社売上は微減となりました。

眼科手術補助剤オペガン類は、2016年7月に発売したシェルガンの積極的な販促活動により市場浸透が順調に進み、医療機関納入本数及び市場シェアが大幅に拡大し、当社売上も増加しました。

LAL事業

医薬品・医療機器の品質管理に使用されるエンドトキシン測定用試薬などの製造・販売を国内外で展開しています。

売上高構成比

19.0%



■ 当中間期の業績

売上高29億3千6百万円(前年同期比4.7%増)

米国子会社を中心としたエンドトキシン測定用試薬等の海外販売が堅調に推移し、増収となりました。



財務諸表など業績に関する詳細は、当社Webサイトの「株主・投資家向け情報」でご覧いただけます。

<http://ir.seikagaku.co.jp/> (決算説明会の音声とプレゼン資料も掲載しています。)

内視鏡用粘膜下注入材ムコアップの当社売上は、前年同期並みとなりました。

海外医薬品 売上高35億8千6百万円(前年同期比11.1%増)

単回投与の関節機能改善剤ジェル・ワンは、米国における現地販売数量が引き続き増加しています。当社売上は円安効果があったものの、前年同期に製品のラベル変更に伴い出荷が集中した反動や、一部大口顧客への価格対応に伴う現地販売価格低下の影響を受け、前年同期並みとなりました。

5回投与の関節機能改善剤スパルツFXは、競合環境が厳しさを増すなか、米国現地販売は微減となりましたが、現地在庫積み増しに伴い出荷が集中したことから、当社売上は増加しました。

中国向けアルツは、政府の価格抑制策等による影響が一巡しつつあり現地販売は微増となりましたが、当社売上は現地在庫調整に伴い減少しました。

医薬品原体 売上高5億1千9百万円(前年同期比3.1%減)

ヒアルロン酸は横ばいで推移しましたが、コンドロイチン硫酸の出荷タイミング要因により、売上は微減となりました。

関節機能改善剤

アルツ®

アルツディスポ®

Gel-One®
(ジェル・ワン)

SUPARTZ FX®
(スパルツFX)



アルツディスポ®
関節注25mg



Gel-One®
(ジェル・ワン)



SUPARTZ FX®
(スパルツFX)

通期の業績見通し

当中間期において、利益面が2017年5月12日に公表しました通期の連結業績予想に達していますが、研究開発費が第3四半期以降に集中することなどを踏まえ、同連結業績予想からの変更はありません。

科目	2018年3月期業績見通し	増減率(前期比)
売上高	30,300	+2.4%
営業利益	1,500	+17.0%
経常利益	3,750	+51.4%
当期純利益	2,700	+51.0%
研究開発費	8,350	+6.6%

※為替レート:対米ドル108円を前提としています。

配当に関する基本方針

中長期的な視点に立ち、安定的かつ継続的な配当を目指し、1株当たり年間26円を継続する方針です。

	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期
1株当たり年間配当金	26.0円	31.0円	26.0円(予想)
中間配当金	13.0円	13.0円	13.0円
【内訳】 期末配当金	13.0円	13.0円	13.0円(予想)
記念配当金	-	5.0円*	-
配当性向	57.3%	98.3%	54.6%(予想)

* 創立70周年記念配当金

研究開発活動

生化学工業は、専門分野としている糖質科学に研究開発の焦点を合わせて、新製品の早期かつ継続的な上市を実現するために、対象物質や重点疾患を絞り込んだ効率的な活動を推進するとともに、内外の研究開発ネットワークの強化にも努めています。

開発パイプラインリスト

開発コード・物質名		適応症	開発地域	第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相	申請
SI-6603	コンドリアーゼ	腰椎椎間板ヘルニア	日本 米国				●
SI-613	ジクロフェナク結合ヒアルロン酸	変形性関節症 変形性膝関節症	日本 米国		●	●	
SI-613-ETP	ジクロフェナク結合ヒアルロン酸	腱・靭帯付着部症	日本		● 後期第Ⅱ相		
SI-614	修飾ヒアルロン酸	ドライアイ	米国			● 第Ⅱ/Ⅲ相	

腰椎椎間板 ヘルニア治療剤 SI-6603

国内では、承認取得に時間を要しているものの、当社としては審査が進捗していると考えており、引き続き早期の承認取得に向けて努力してまいります。

米国で実施した第Ⅲ相臨床試験では、薬理効果及び本剤の安全性が認められた一方、主要評価項目である投与後13週での下肢痛軽減において有意な改善効果が認められませんでした。ライセンス先であるフェリング・ファーマシューティカルズ社との協力体制のもと、今回の試験結果から得られた知見を反映させた再試験を早期に実施するための準備を進めています。

変形性関節症及び 腱・靭帯付着部症治療剤 SI-613

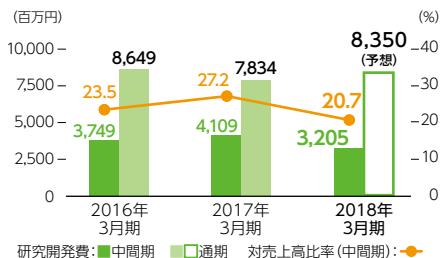
小野薬品工業株式会社と日本における共同開発及び販売提携に関する契約を締結しました。また、腱・靭帯付着部症を対象とした後期第Ⅱ相臨床試験を共同で開始しました。

経営資源を集中的に投入

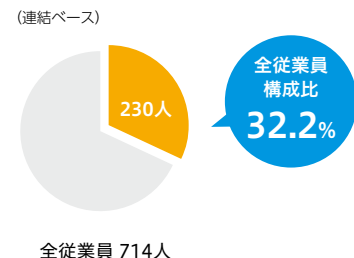
研究開発型製薬企業である当社は、独自の医薬品及び医療機器などの継続的な創製に取り組むため、経営資源を研究開発に集中的に投入しています。

当中間期の研究開発費は、費用の一部が第3四半期以降にずれ込んだこと等に伴い減少しました。

研究開発費 3,205百万円 (当中間期)



研究開発要員 230人 (2017年9月30日現在)



会社概要 (2017年9月30日現在)

社名	生化学工業株式会社		
創立	1947年(昭和22年)6月2日		
資本金	38億4,040万円		
従業員数	714名(連結ベース)		
事業所	中央研究所 CMC研究所 久里浜工場 高萩工場		
主な子会社	ASSOCIATES OF CAPE COD, INC. (アソシエーツ オブ ケープ コッド インク)		
役員	代表取締役社長	水谷 建	常勤監査役 竹田 徹
	代表取締役専務取締役	矢倉 俊紀	常勤監査役 河原 茂
	取締役 常務執行役員	大西 和明	社外監査役 竹内 信博
	取締役 常務執行役員	岡田 敏行	社外監査役 柴田 義人
	社外取締役	片山 英二	社外監査役 藤本 美枝
	社外取締役	林 いづみ	

株式の状況 (2017年9月30日現在)

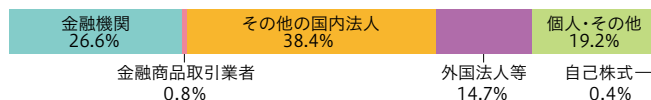
発行可能株式総数	234,000,000株
発行済株式の総数	56,814,093株
株主数	9,578名

大株主の状況

	株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
1	新業株式会社	7,843	13.9
2	株式会社開生社	7,293	12.9
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,735	4.8
4	みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	1,973	3.5
5	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,907	3.4
6	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,797	3.2
7	株式会社三菱東京UFJ銀行	1,536	2.7
8	THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED 131800 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	1,360	2.4
9	科研製菓株式会社	1,207	2.1
10	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	1,057	1.9

※持株比率は自己株式(209千株)を控除して計算しています。

所有者別株式分布状況



株主メモ

■ 事業年度

4月1日～翌年3月31日

■ 定時株主総会

6月

■ 配当金受領株主確定日

3月31日(なお、中間配当を行う
場合の確定日は9月30日)

■ 基準日

定時株主総会については、3月31日
その他必要があるときは、
あらかじめ公告する一定の日

■ 株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社
《株主事務に関するお問い合わせ》
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL:0120-232-711(フリーダイヤル)
(郵送先)
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
ホームページアドレス
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

※株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関の事務拠点の移転に
伴い、2017年8月14日付にて上記のとおり変更しております。

《住所変更等のお手続》

株主さまのお取引の証券会社
ただし、特別口座に登録された株式に関するお手続は
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部(左記)で受け付けます。
《未払配当金受領のお手続》
三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

■ 公告方法

電子公告掲載ホームページアドレス
<http://ir.seikagaku.co.jp/ja/kk.html>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による
公告をすることができない場合は、日本経済新聞に公告します。



生化学工業株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6-1
丸の内センタービルディング
TEL: 03-5220-8950

<http://www.seikagaku.co.jp/>



本冊子は、FSC® 認証紙を使用し、「Non-VOC」の大豆油を主体とした植物油系インキを使い、印刷しています。